11-2C-1

特261
704

山口縣々勢

第二輯

郷土の誇り

(字都市追補厚狭郡)

山口縣々勢刊行會

始

特261
704

百万一心

目次

一、宇部市追補……（一）
一、厚狹郡……（一〇）
一、藤山村……（一〇）
一、厚東村……（一三）
一、厚南村……（一四）
一、小野田町……（一九）
一、高千帆村……（三四）
一、生田村……（四一）
一、吉田村……（四三）
一、王喜村……（四四）
一、小野村……（四五）
一、厚狹町……（四七）
一、出合村……（四八）
一、吉部村……（五〇）
一、舟木町……（五一）
一、二俣瀬村……（五二）
一、万倉村……（五三）

宇部市追補

第一輯に於いて人物は大底書きつくしたがまだ書いて誇りとするに足る人物が多かつたのと一輯に書いてなかつた郷土の誇りを書き加へる爲めに追補をしたのである、宇部市郷土の物質的誇りは石炭の産出であり精心的の誇りは質實剛健なる氣風と共同一致の精である、物質的誇りとなる石炭は現在一萬二千人の勤勞者によつて毎日一萬噸近く産出されて五萬の市民を養い精心的誇りとなる質實剛健の氣風と共同一致の精心は市憲五則によつて現はされよく五萬市民の協調を保ち兩々相まつて堅實なる産業都市を建設しつゝあるのである、日に月に進んで行く宇部事業界は實に目まぐるしい程でセメント製造事業紡績事業電氣鐵道造船事業製材事業鐵加工事業等實に枚擧に苦しむ程であり之にともなつて商業も盛んで大商店節比し新興都市の活氣たとふるにものなき有樣で之等はやがて昭和六年に完成される宇部築港に依つて更に一大發展を逐げ事業界ともに充實した縣下一の都市を建設するに至るであらう、左に宇部市建設の母体となつた石炭産出事業を郷土の誇りとして三大炭鑛の一端を記す

一、沖ノ山炭坑株式會社

宇部市の中央南端に半島形を爲して沖へ沖へと發達し市街から電車を通じて居る、戸數二千數百戸人口一萬數千勞働者五千有餘此處のみにて優に一の町を形成なし得る。資本金一千三百萬圓の大會社である、現在一ヶ年の石炭産出高九十四萬七千噸、市内全炭鑛の殆んど二倍産出して居る、創立されて三十餘年間、昨年最も盛大な三十年式が上げられた、社長は人も知る政友會山口縣支部長渡邊祐策氏である、當炭鑛の誇りとする處は豐富なる石炭の埋藏量と從業員全体の家族的親和である、共同一致の精神である、それは社長渡邊祐策氏の人格の現れでなければならぬ、渡邊氏のモットウとする産

業豐國の大精神は鑛内全般一小使の端に至るまでみなぎり渡つて居る、故に思想は穩健である、會社の特長として最も誇る可きは社員が會社を愛する精心である他の會社の樣に朝何時から午後何時迄と時間に制限をつけないで朝は暗い中から晩は暗くなる迄一意專念に働らく、而も三十年間一日のゆるみもない此精神あつて初めて今日の大沖ノ山炭鑛株式會社は出來上つたのである、社運は彌が上にも發展し永へに榮ねてゆく。

二、東見初炭鑛々業所

東見初炭鑛が創立されて最早二十餘年、昨年十月二十三日盛大に二十年式が上げられた、現在の從業員三千數百人一ヶ年石炭の產出高三十三萬餘噸、鑛内外設備壯觀は筆紙に盡し得ない、海深く防波堤完全に築かれて潮の干滿を問はず數千噸の船舶を自由に碇泊せしめ得る頭取は前貴族院議員藤本閑作氏、副頭取は現山口縣々會議員國吉信義氏で、共に宇部市有數の剛健なる鑛業家である、兩氏の實剛健なる精心はよく從業員全体の胸底に刻まれて所内一般に活氣があり日に月に榮ねてゆきつゝある、而も隆盛なる今日忘れてならぬのは十數年前即ち大正四年四月十二日の大災厄であつた當時創立後年月未だ淺く事業の端緒を得て居ないのに海底が鑛内に陷落し三百數十名の生靈をうしない一時休鑛の憂目を見た、併し所員全体の血のにじむやうな奮闘は間もなく復興の喜こびを迎へ數年來順潮に鑛運は榮ねて世は不景氣の聲におびへつゝある今日同鑛内のみは全般に不平も不滿もなく上下數千名平和なる月日を迎て居る。

三、大倉鑛業株式會社沖見初炭鑛々業所

同鑛は大正五年鈴木商會の手に依つて創立された宇部市最東端にある炭鑛で、昭和二年初秋田商會から大倉鑛業株式會社の手に移され現在の如き名稱になつたのである、同鑛は鈴木商會の營經時代亂堀に亂堀を重ねて隨分無理な石炭の採堀をして居たので石炭の埋藏多きに拘はらず徒らに經費のみ多くかゝり他の二大炭鑛程の成績を上げ得ない、併し所長漆野佐一郎次長高橋岩太郎兩氏の敏腕と晝夜の隔てなき不屈不撓の奮闘に依つて最近漸く秩序を立て得た、日ならずして回春の喜こびを迎へ上下共に歡喜の聲を漲らせる日が來るであらう、現在同鑛の從業員二千名を超ね石炭一ヶ年の產出高二十萬噸に近く、又上下の融和よくとれて平和の中に歩調を揃へ難關突破に努めて居る。

事業方面は以上で止めて市と共に活動しつゝある有名人物の名を左に記してゆく。

森　隆　孝氏

氏は大阪毎日新聞社宇部通信員である、始め久しく朝鮮京城日報社に居て十數年前宇部市に來住し大阪毎日關門日々兩新聞社の通信員を爲して居たのであるが關門日日新聞の方は後進に讓り今は大阪毎日新聞にのみ筆を執つて居る、宇部新聞界の元老であり宇部市自治体のかくれたる功勞者である、溫容櫻花に曇りし春の日の如く溫かで優しく快よい感銘を人に與へ又後進を指導するに極めて懇切である。

宇部時報社々長

脇　順　太氏

日刊宇部時報社々長脇順太氏は慶應大學出身で久しく中等學校教師をして居た人である、十數年前宇部市に來り當時月二回發行して居た時報社に入り爾來社運の進展をはかり旬刊週間發行から數年前日刊にしたのである、曾ては市會議員を務めたる事もあり宇部市自治体に功績多し性極めて謹嚴冷靜理性に勝つた人である。

中　嶋　清　三氏

氏は大阪朝日新聞社宇部市通信員であり、最高學府出身者で宇部新聞界新進の士である、新興の都市たる宇部市

には將來幾多の難事業難問題が起つて來るであらうが氏の執る筆の力はよく白血球の如き働らきを以つて活動するであらう。資性温情交際に長けた人である。

宇部日々新聞社々長

阿山石三郎氏

氏は日刊宇部日々新聞社々長である

が極めて外交の術に長じた剛快な人である、始めは週間發行くらいの小新聞であつたのを數年前に日刊に改めたので今では市内は勿論縣下德山柳井厚狹防府等の各地方へ廣く發行して輿論機關としての使命を果して居る、年齢初老に入たれど尙元氣滿々何事かをなさんと目論んで居る。

宗教家

立川豊人氏

氏は金光教會宇部教會所の教會長である、始め十數年前勞働都市として殺ばつな宇部へ來住し不知の土地へ血の滲むやうな苦心と剛健なる精心を以つて布教につとめ今日の如き成功を見たのである。過去十數年間に氏によつて救はれ不幸なる道より幸福へ轉じた人は實に僅少でない、尙將來宗教を通じて宇部精心界に多大の功績を上げ得る極めて温厚篤實な宗教家である。

米川秀吉氏

氏は名利を追はぬ宇部市の一名士である、市街よりやゝ離れた小串の閑靜なる處に住居し書畫骨董盆栽の類を愛翫し時には俳句もやると言ふ風流に富んだ人である、少量ではあるが酒もたしなむ、飲まない時は士君子のやうであるが酔へば氣輕くなつて風流人の氣骨を發揮する。

永谷秀一氏

かつては沖ノ山炭坑會計課へ勤務して居た事もあれど家事上の都合で退職つて居る、元々身が病弱であつた爲め相當の素養も識見あつたのを

胸底深く藏して若き身を遊ばして居た、併し今は健康も回復し智慮も漸く熟して來たので氏の活動をする姿を凝視する日も蓋し近き日にあるであらう資性極めて温厚自己の智を人に誇らぬ人である。

高木義英氏

氏は東京三田英學校出身の秀才にして故南工學博士に就いて研究を積み東京芝新錢座近藤塾で數學を研む、鐵道局靜岡建築課勤務を振り出しに本州は無論朝鮮北海道を駈け巡り工務所技師として活躍せし人で現在は宇部鐵道會社運輸部長兼主任技術者として又小野田鐵道會社主任技術者として地方交通機關の向上發展に盡瘁して居る。理智に明るい温厚な人である。

西村庄太郎氏

氏は宇部市の東南端岬に閑靜な住居は神原小學校の主席訓導として永年勤め、昨年四月退職して實業界に身を投じ新たなる方面に其敏腕を延し又地方自治界にも相當の希望と期待を持つた人物である。

粟屋才藏氏

氏は宇部市八王寺區の人で同方面の德望家である、先年物故せられた氏の嚴父は市の元老の一人で市會議員にも出て居た人である、氏は年齢未だ若けれど區民の信望も多く嚴父の德望を受け續いて將來市の有用人物として活躍する素質を充分に供へた剛直な人物である。

金野藤衛氏

氏は資本金一千三百萬圓の沖ノ山炭坑株式會社重役兼鑛務課長であり、温和なる君子人である、大都會で氏の如き地位にある人なれば其大部分の人は柳暗花明の巷に夜咲く花の高い香を求めて遊び興ずるのであるが、氏は左樣な事は大の禁物で只

管職務に忠實で熱心である、家庭に於ける氏は極めて温厚で圓滿な風格を持つた人である。

山田直吉氏

氏は鐵工業を營んで居る宇部市に於て最も堅實なる實業家である、表面極めて柔和で温厚に見ゆれど胸中尙ほ剛健さをうしなはない、さればこそ多數の職工から慈父の如く慕われて未だ一言非難の言葉を聞かず業務日に榮ゑて居る、人に接しても快感を與へる極めて眞面目な實業家である。

國重時右衛門氏

氏は西沖ノ山炭坑頭取である、極めて朴訥な風貌を持つた人で質素な事も又無類常に綿服を纏い途上で逢つても一田夫人の如く之れが大炭坑の頭取かと思ふ程である、併し心には何時も錦を纏い、穏かな言動の中に言ひ知れぬ温い情を湛へて居り現代に得難い温和な人物である。

廣澤德民氏

氏はドクトルで沖ノ山同仁病院の外科部長である、醫術にかけては大手腕家と言はれて居り極めて快活で交際の術に長じ氏の交際ぶりは實に圓滿なものである、將來に多くの期待を持つた人物である。

藤本庄之進氏

氏は宇部市の古い實業家である、沈落で厚温な人物、てきはきとした敏腕家ではないが其れ以上氏を價値づけ得るのは堅實な眞面目さである、頭上霜をいただく程の老齢であるが元氣未だ壯者の如くまめ〳〵と卒先して働らき身を以つて店員に模範を示して居る、堅實な商業家として市中の信用を得て居る誠に温和な人である。

氏は將來宇部市の中堅人物として今

植田定一氏

から發芽しやうとする人であり、宇部市有數の大地主である、先年大患に逢ひ生死の境を彷徨つたのであるが、幸に回生の喜びを得て今は以前に增して健康である、年齢未だ二十九才素養もあり才もあり金もある、何れの方面に手をのばさんとするか未だ知る人もないが政界に現れるにせよ實業界に現れるにせよ氏の發芽は刮目に價するであらう。

今村政一氏

氏は剛直な柔道家である、數年前宇部市に道場を開き爾來一意門弟の養成につとめて居る、傍ら接骨術と整復術を行つて居るが整復接骨ともに妙を極めたものでよく功を顯はして居る、性剛健謹直にして古武士の如き面影を持した人である。

竹内貞之氏

氏は宇部市に於て鐵工業を營んで居るのである、性極めて温厚な人でかつて立腹した事がないと言ふ位で隨つて交際も圓滿で廣く又友情にも厚い、市實業界の中堅人物で職工からも慈父の如く尊敬されて居る温和な人である。

笹井良助氏

氏は宇部實業界の中堅で家には質商を營んで居るが性極めて温和で隣保の情に厚く區内の世話報德會の世話等に骨身を惜まず常によく働らいて居る、温厚篤實な明るい氣分のする人である。

回生堂

産科婦人科專門で市内有數の醫院である、宇部市錦橋通り三丁目南側より少し奥に入つた處にあり設備完全、病室完備して患者の便極めてよく院主は温厚を以つて知られた安右一氏である。

宇部銀行支配人

村田新一氏

氏は性謹直清廉、頭腦明晰にして敏理に明るく、經濟の學にも深く堅實なる人物。高等學府の出身にして才幹あり、現在宇部銀行支配人の重職にあり執務に際しては明快迅速に熱誠を以つて奮闘しつゝある。

百十銀行宇部支店長

今井治介氏

氏は資性清廉謹直の士にして思想穩健、思慮稠密なる一個の人格者である活で磨き上げたる老練なる手腕を以つて一意地方金融界の爲めに活躍しつゝある。氏は理財の道に明るく、永年の俸給生

乾鰕製造業

松田長藏氏

氏は性磊落にして謹嚴、頭腦明晰にして義俠心に富む、然れども曲つた事は絶對に嫌ひの人、常に區民の福利增進に努め區民から敬慕されてゐる。氏は青年の頃より實業界の荒浪と戰ひ不撓不屈、遂に今日あるに至つた立志傳中の人である。

秋重内燃機製作所主

秋重實藏氏

氏は資本金約二萬圓を投じて内燃機の製作所を起し製品の優秀なる爲め豫想外の好成績を示し市街の一角に擡頭の氣勢を見せた人で資性溫厚にして勤勉、且つ研究心に富む故各方面の氣受けよく前途を期待されてゐる。

土木建築請負業

今江音次郎氏

氏は資性溫厚、柔和にして一滴の酒も嚐まざるも一種の氣慨を有す。氏は關西に於ける斯界の權威として奮闘しつゝあり、幾春秋刻苦奮勵波瀾重疊、遂に今日の信望を得るに至つた人で、工事の完成には死力を盡してこれを完ふせんとする偉大なる精神の持主である。

氏は資性溫厚にして商才に富む。現在

砂糖、雜穀、乾物商

上野忠次氏

では多數の店員を指揮して砂糖、雜穀乾物の卸小賣業を營み、絶わず品質の精選に注意し良品を安價に、顧客本位で營業を續けてゐるので期せずして信用は加はりつゝある。

日の出商會主

岡村木氏

氏は明治四十三年以來清涼飲料水の製造販賣を營み、常に衛生に意を注ぎ原料の精選に重きをおき、製品の絶對安全優秀なるを以つて其の名を知られてゐる、氏は性溫厚にして俠氣あり研究心に富む。

石炭商

中西茂吉氏

氏は溫厚にして且つ磊落、俠氣あり現在宇部鑛業組合指定の石炭商として活躍しつゝあり遠く東京、阪神、四國方面に取引先を有し老練なる手腕と商才に富む故相當の成績を擧げつゝある。

石炭商

名和田政助氏

宇部鑛業組合指定石炭商として阪神名古屋、四國方面に販賣先きを有し活躍してゐる氏は資性豪放磊落にして、識見才智ともに兼ね備はり、活達機敏の商才あり、石炭同業組合中に於ても代表的人物であり、方面委員をも勤めてゐる。

三輪商事合資會社代表社員

三輪健介氏

氏は厚狹郡船木町の人、三輪家は代々の名望家にして先祖は大内氏以來の御殺醫である。氏は現在の明治大學の前身校の出身で、實業家に入るや爾來幾多の鑛山を經營したるも利あらず大正五年來宇して今日に及ぶ、氏は性豪放磊にして俠骨あり小事に拘泥の士である。

重富外科醫院長
二等軍醫從五位勳四等

重富貫二氏

氏は性溫良なるも氣魄を有し、言動は謹直なるも一種の愛嬌を有する人格

者、曾つては軍籍に身をゆだね國家の干城として奮鬪し二等軍醫從六位に叙せられ勳四等を賜はる。現在では外科一般の開業醫として活躍し常に修養を怠らず天職に忠實である。

山口縣厚狹郡

本郡は縣の南端にあり東西七里三十一丁南北六里三十四丁、面積二十四方八一であり町の數三村數十二を有し戸數一四、九二九戸人口七二、〇〇〇である。

厚狹郡藤山村

位置 厚狹郡西南部にありて東北は宇部市厚東兩市村に接し西は厚東川を隔てゝ厚南村に接す南は海を隔てゝ遙かに筑豐の諸山を望む宇部市との合併の議熟さんとして近く其實現を見んとして居る

面積 宅地 八三、〇七六坪 田地 二一一町一九〇
畑地 三八町二〇〇 山林 一一一町七九〇

戸數 八四〇戸 人口 三、八六四人

歳出入 三〇、八二四圓

郷土の人々

村長 **松谷辰藏氏** 氏は村長の職に就いたのは第一期であるが藤山村に於ける古い名望家で漢學の造詣深く地方自治には特に精通し老巧な村政家である、かつては久しく宇部郵便局に局長として勤務され氣高い氣品と高潔な人格は今尚其當時の人々の腦裡に深く刻まれて居る、資性極めて溫厚謹直情誼に厚く後進者をよく導き高慢の心少しもなく誠に溫和な君子人である。

助役 **村上市十郎氏**

村會議員 **西野杢助氏** 氏は同村々會議員中年長の人で外に藤山村信用組合常務理事を兼ねて居る君子人である年齢六十一才尚元氣壯者を凌ぎ村政に多大の功績を擧げつゝある。極めて清廉潔直な人で常に正道を歩む

村會議員 **藤井友吉氏** 再選、五十八才同村中山に邸宅を持つた溫和な鑛業家である。

村會議員 **藤井亀之助氏** 再選、五十三才同村居能町に邸宅あり謹直な人、漁業組合長である。

村會議員 **藤井壽人氏** 新選、五十五才同村居能町に邸宅あり清凉飲料水製造家である。

村會議員 **橋本安治郎氏** 再選、極めて溫良な信望厚き人である地主

村會議員 **梶井信夫氏** 新進、三十七才同村居能に邸宅あり齒科醫を業とし熱情的雄辯家である。

村社議員 **宮崎梅一氏** 同村濱田に邸宅あり、新進三十六才極めて溫厚なる篤農家である。

村會議員 **佐貫三四郎氏** 新選、五十三才同村居能町に邸宅あり村醫學校醫として名望高き人である。

村會議員 **花村榮三郎氏** 再選、五十一才地主にして極めて溫厚な村政家、理智に明るい人である。

村會議員 **藤田正介氏** 再選、三十六才同村居能に邸宅あり宇部市東見初炭鑛の事務員である。

村會議員 **田中佐一氏** 新選、四十七才同村居能に邸宅あり性謹直にして極めて敏腕な商業家である

村會議員 **秋富久太郎氏** 再選、慶應三年生、同村上條に邸宅あり西沖ノ山炭鑛の重役である。

名望家 **松谷菊一郎氏**

同村藤曲に邸宅あり前村長として長く村治上に功績あつた人である。

名望家 **上田範之助氏**

同村居能に邸宅あり前村長として令名高かりし温厚なる君子人である。

名望家 **笹井讓三氏**

同村藤曲に邸宅あり醫師にして藤山信用組合組合長である。

名望家 **渡邊傳四郎氏**

同村居能に邸宅あり前村長同助役として名あり現宇部鐵道會社支配人である

藤山小學校々長 **勝部重郎氏**

同村藤曲に邸宅あり教育家として眞に得難き温厚實直な人格者である。

在地軍人藤山分會長 **大石憲一氏**

同村居能に邸宅あり呉服商を營む、私立香川女學校教諭にして立派なる紳士である。

大石萬吉氏

同村藤曲に邸宅あり大石憲一氏の嚴父にして香川女學校設置に功勞ありし人である。

私立香川女學校々長 **香川昌子女史**

女史は縣下で教育界に名を知られた人で教育の爲めに一生を獨身で通し身を教育界の犧牲にする氣高い女子教育家である。

香川女學校

私立香川實科高等女學校は藤山村の誇りの一つである、實地に役立つ良妻賢母を養成するのがモットーで之れ迄幾多の才媛を世に送り出して居る、實際の教育程度も縣立と何等變りなく同校卒業者で師範芸他の上級學校へ進學したものも數多あり又家庭に入りし人でも實に貞淑である、故に其校風を慕いて參集するもの遠近を問はず生徒は年々殖へる一方で校舍も增築してゆき堅實に榮へて行きつゝある。

厚狹郡厚東村

地勢 厚狹郡の東端にあり東方は直に吉敷郡嘉川村に境し北部は同郡二俣瀬村に接し南西部は同郡厚南高千帆二村に接す、中央に厚東川貫流するあり又山陽線に沿ふて交通の便すこぶるよし。

面積 宅地 八二、五八四坪　田地 四、〇六五、二二五坪

畑地 四二一、七〇七　山林 六、三〇五、四二七

戸數 四七〇戸　人口 二、五四六人

歳入出 二二、四八三圓

村を支配する人々

村長 **平中彌五郎氏**

村長として奉職したのは初期である併し村民の信望極めて厚くかつては郡會議員一期村會議員二期つとめて居り其手腕はあまねく認められて居る、同村屈指の大地主であり齢未だ五十歳である、前途尙ほ幾春秋に富む。

助役 **津田順藏氏**

村長平中氏を補佐してよく其任務をつくして居る、資性温厚今より二十九年前役場に入り書記より收入役を經て現職に至り相續いて三期に及ぶ、永年勤續の爲め昨年縣當局より表彰を受く、年齢五十八歳。

村會議員

農業	初期	五十一歳	林鐵之進
農業	初期	六十一歳	上原平二郎
農業	初期	四十九歳	杉野清一
農業	初期	五十二歳	藤本仁平
農業	初期	五十一歳	松田良介

農業	初期	四十八歳	重本辰一
農業	初期	三十七歳	森尾豊介
農業	初期	四十八歳	小林十六
農業	初期	六十三歳	中川永治郎
農業	初期	四十七歳	尾山辨輔
農業	初期	四十三歳	岡部道右衛門

（定員十二名、欠員一名）

名望家	村醫	五十五歳	松岡文五郎
名望家農會長	大地主	五十九歳	田中正吉
名望家信用組合長	大地主	六十三歳	小林勇八
名望家前村長	地主		長井民治
小學校々長兼青年團長			繩田松二

厚狹郡 厚南村

位置 厚狹郡南部にあり東部は厚東川を隔てゝ藤山村に面し北部は厚東高千帆両村に接し西は小野田町に接す、南部は海を隔てゝ遙かに筑豐の諸山を望む

面積 宅地 一七六、九四〇坪　田地 七、九四一反
畑地 一、二七四反　山林 三、八六一反

戸數 一、三〇四戸

歳出入 人口 六、四九六人

郷土の人々

村長 繩田壽氏 回農村の自治体に精通し永年の間統制の實を上げて村政の平和維持をして今日最もすぐれたる村長として村民の信望を一身に集めてる、資性極めて温厚篤實にして名利を好まず只管村民の幸福を念願として其日村長として村治の局に當る事前後三

〳〵の村務を見る事につとめて居る、最早老境に入らんとして居れど未だ元氣壯者におとらず尚幾多の希望と期待を其胸底に藏して居る。

助役 神田猪作氏 昨年河内壽千代氏の後を受けて助役となつた人である、氏の手腕と識見は相當認められて居るけれどそれを何の程度迄發揮し得るかは將來の事として期待されて居る資性は極めて温厚であり農村の君士人である。

村會議員 西村佐一郎氏 氏は厚南村自治界の元老である、村會議員となる事も數回村政に明るく自治体の模範的功勞者である、資性又極めて温厚篤實趣味として囲碁を嗜なむ、家業は數代續いた酒醸造業であり地方の名望家である。

村會議員 繩田秀作氏 村會議員として元老組の一人である村會に籍を置く事數回老練な村政家として知られて居る、資性極めて快活にして情誼に厚く現在では同村妻崎郵便局の局長を勤めて居る。

村會議員 幡生榮之進氏 氏は同村會に於ける老年組の一人であつて非常な篤農家である、資性極めて温和にして人に深い親しみを與へる好人物であり趣味として海に親しむ。

村會議員 根木柳一氏 氏は同村會の中堅組の一人で村政に明るい事は勿論であるが又辯論の術にも長じて居る、資性は極めて温和で現代的タイプを持つた紳士である、現在小野田セメント製造株式會社の社員である。

村會議員 氏は同村會に於ける中老組である、

田中七五郎氏　理財家であつて勤勉家である、資性は温和にして極めて物がたい人物である

家業は醬油釀造業である。

村會議員

山根寶一氏　氏は同村會に於ける中堅組の爽々たる人物である村會に籍を置く事數回自治に明るきは勿論であるが又同村會の正義家であり雄辯家である資性極めて剛膽にして俠氣あり地方稀に見る硬骨漢である現在は消防部長であり家業は酒類釀造業である。

村會議員

木谷元太郎氏　氏は同村會に於ける最長老である村會に出る事數回村政にも明るく長老として尊敬されて居る、資性極めて温和趣味として海に親しみ、悠々たる余生を送つて居る。

村會議員

磯部惣四郎氏　氏は同村會の中年組の一人である、理智に富んだ人物で村政上には勝れたる定見を持つて居る、現在は小野田セメント製造株式會社の社員として勤務して居る。

村會議員

伊藤竹次氏　氏は同村會の中堅組の一人である、教員生活を永くつとめて居た温厚な人物で村會議員は初期である、現在は小野田炭坑の事務員として勤務して居る。

村會議員

西村文助氏　氏は同村會の中年組の一人であるが極めて温健な議論の把持者である、別に取り立てゝ言ふほどの趣味も持たず農業に精進して居る。

村會議員

河内壽千代氏　氏は久しく同村の名譽助役として勤務し村政上に多大の功勞を殘した人であるが昨年家事上の都合で助役を辭し今は家庭の人となつて居る、資性極めて温厚篤實農事に精勵し村政にも明るい、地方の代表的人物として推稱するに足る人格者である

村會議員

河野久千代氏　氏は村民の信望最も厚い同村會の花形である、村會に籍を置く事數回自治の發達と村民の福利增進につとめて居る、資性極めて温厚にして誠に圓滿なる君士人である。現在小野田炭坑事務員である。

村會議員

川村信太郎氏　氏は同村の篤農家である、村會議員となつたのは初期であるが極めて温厚で圓滿な其人格はよく村民の代表としての職責を全うし良議員として推稱されて居る。

村會議員

松田五郎兵衛氏　氏は村會隨一の沈默家であり、村會議員は初期である資性極めて温和で誠に好々爺たるの感じを人に與へる老境に入つた人物で同村の地主である。

村會議員

藤田清左衛門氏　氏は同村中年組の一人である、村會議員としては初期であるが尙ほ將來にも幾多の希望と抱負を有して居る村政家である、資性極めて剛放にして社會問題に功勞のある人である。

村會議員

神田重一氏　氏は同村屈指の德望家で村會議員としての職も非常に長い而して村政に明るく人情に精通した地方では稀に見る德望家であり、公共事業に盡したる事も又同村隨一である、資性も又極めて温厚篤實で人情味深く友人間の情誼に厚く誠に圓滿なる君子人である、趣味として骨董を愛翫し竹材業を營んで居る。

刀桂家

杉右一氏　氏は有名なる刀桂家である、厚狹郡の名流厚東川下流の閑靜なる地に醫業

を開始して數十年間鋭意斯業に從事し其間救はれた患者の數も實に數千を以つて數ふる位いである、資性極めて溫厚にして親しみの多い君士人である、村會議員としての職は初期であるが尙將來には幾多の希望も期待も持つて居る村政に明るい政治家である。

村會議員

三隅哲雄氏

氏は同村々會議員であると共に名望家でもあり大地主である氏は郡制廢止前長く郡會議員をつとめ、又縣農會議員もつとめ代議士に選ばれた事も二回ある、かつては立憲民政黨山口縣支部長たりし事長となつて居る、同村内に於ける公職は村會議員以外に消防組頭をつとめてゐる、資性極めて溫厚潤達明細な頭腦の持主である。

素封家

三隅壽介氏

氏は同村隨一の大地主であり數代續いた素封家である、今では老境に入つてゐるが至つて名利に恬淡な君士人である、理財の術に長と資性も極めて溫厚篤實である。

名望家

德永勘太郎氏

氏は同村の元老である、久しく村會議員として村政に功勞を殘した人であるが今は靜かに退いて閑日月を友に自宅で靜養してゐる、併し未だ希望と期待をすてず機至らば今一度村政に功勞をつくさんと秘策を胸中にめぐらして居る。

繩田熊太郎氏

氏は厚南郵便局の局長である、非常に通信事務に熟達し局長生活を長く續けてゐる、資性極めて溫厚にして交誼に厚い君子人である、政治に對して深い理解と趣味を持つてゐる。

實業家

柴田茂一氏

氏は厚南村在鄕軍人分會長である、久しく軍務にあつたが歸鄕後實業に志し之亦成功して蓄財を爲してゐるが現在では實業の傍ら炭鑛業を始めて居る、資性極めて磊落にして義氣に富んだ人物である。

厚狹郡小野田町

位置 厚狹郡中央南部にあり東北西は厚南厚東高千帆各村に接し南は半島形をなして突出して居り遙に海を隔てゝ筑豐の諸山を望む。

面積 宅地 三〇四、〇〇一坪　田地 二九五町八八二二
畑地 一五一町九四二三　山林 一九一町七二〇五

戶數 三、三七五戶　人口 一五、三五六人

歲出入 一九〇、五二三圓

小野田町の誇りは左の二大會社であり現在一萬五千有餘の人口は殆んで之れで養はれて居ると云つてよい。

◆小野田セメント製造株式會社

小野田セメント製造株式會社本社工場は當町小野田開作の一、二ノ割にあり、小野田鐵道セメント驛の附近である。此の會社は山口縣士族をして自營力食の途に就かしむるため、笠井順八翁主唱となり外三十八名の發起で明治十三年一月廣く資を募り五萬圓の株式組織とし、翌十四年小野田の地に工場を創設したのであつて、我國民設セメント製造の嚆矢である。

斯くセメント工場設立を決したる笠井翁は明治十三年同族の青年五人を選び、東京深川工作分局に就て英式製造法を修めしめ、又自分は大工を伴ひ同局に往來して設計をなした斯くて同十五年には建築器械の裝置全く竣る。

然るに創業經營の困難は當時經濟界の波瀾を受けて殊に甚しく、會社の倒産する者相次ぐ中に、辛して維持をなし、明治十七年六月迄の製造僅に六千二百五十樽に過ぎなかつた、けれ共苦辛經營と共

に事業其の緒に就き、尙漸次セメントの需用も增したるに依り、明治二十年には工場增設を企て、獨人技師を雇入れ、新式機械の購入をなす等、製造力の增加を計り需用に應ずることゝなした。其後更に改良擴張をなす事再次に止らず、殊に明治三十七八年戰役後、事業物興の氣運に乘じ一ヶ年三十萬樽以上の製產能力を有する設備をなした。

續いて滿洲地方に於けるセメント業に着目し、明治四十一年關東州臭水屯泡子崖に大連支社を建設す。

大正二年よりの歐洲大戰爭には、セメント輸入の途を斷ち、反つて輸出をなす有樣となつたので、本社は勿論大連支社も擴張をなし大正五年には朝鮮勝湖里に平壤支社を設けた。大正十三年十二月には愛知セメント株式會社と合併し同工場を愛知支社と稱することゝなり、目下にては本支社を合せ年產額優に三百五十萬樽に及ぶと云ふ。

資本金も遂次增し大正十五年には壹千四百八拾萬圓になつて、會社の基礎愈々堅くなつて行く。

當會社は本邦セメント業の確實なる發達を期し、社內に多額の資金を投じて研究試驗の設備をなし、常に改良發達の途を講じてゐる故に會社製品の品質の良好なるは定評のある所であり、耐海水性及凝結時間の安定には獨特の製造法を案出し、白色セメント製造法と共に、我國の專賣特許權を有してゐる。

其他江場管理、職工待遇上にも最善の制度をとり、即ち八時間勞働制を率先實行し、共濟組合、住宅供給等工場經營の模範となる事は尠くない。

◆大日本人造肥料株式會社小野田工場

此の工場は、始め日本舍密製造株式會社と稱し、明治二十二年七月の創立で、最初の社長は水原久雄であつて始め本社を東京に、工場を小野田に置き二十三年五月より工場建築に着手、翌二十四年三月竣成し、四月始めて硫酸の製造をなした、故に土地の人は之れを硫酸會社と呼むで來たものである。續いて順次に瀉酸、晒粉、曹達の製造を開始し、我國に於ける硫酸及び完全なる「アルカリ」の製造事業としての嚆矢をなした。

二十四五年の間は草創時代であつたが販賣上に就き、製造法に就き鋭意努力をなしたる結果、稍內外の好評を得、前途有望の光明を認める事を得た。

然るに明治二十六年二十七年の兩度火災に罹り、多大の損害を蒙り、漸く復舊工事を完成したが、日淸戰爭中にて原料、製品搬出に運輸の便を失ひ、工賃は騰り事業の困難絕頂に達したに因り、明治三十一年、社內の大改革を行ひ、本社も小野田に移す等經費の節減を行ひ、難關を切り拔けつゝある內幸ひ翌三十二年より製品價格復舊する等好況に向ひ、其上歐米へ事業視察の技師歸社し製造上種々の改善をなし、社運日に進み基礎漸く鞏くなるを得た。明治三十七八年戰役に際して產業殊に化學工業の好況に乘じ、更に歐洲大戰の際には實に目醒しき發展をなした。

而して大正八年日本舍密肥料株式會社と改稱して肥料製造を始め翌九年には大阪化學肥料株式會社並に日本人造肥料株式會社と合併し、日本化學肥料株式會社と改稱した。此頃より戰後の不況時代は來り曩日の面影なく、遂に大正十二年五月、關東酸曹株式會社と共に大日本人造肥料株式會社の傘下に合併した。

而して大日本人造肥料株式會社は資本金貳千貳百四拾萬圓實に我國此種會社の雄たるものにて、其工場としての基礎は動かざるものになつた。

町長

笠井建次郎氏

現山口縣々會議員にして溫厚なる手腕家である、立憲政友會山口縣支部に於ても相當の位置にあり將來の希望と期待もある人物である、町長の職に就く事も二回に及び町政上に起つた幾多の問題も明確に處理し尙將來に向つても手腕は大きくなる可き大なる素質を持つてゐる篤實な人物である。

助役

繩田誠記氏

元郡書記から入りて助役となつた人である、事務に就いての手腕大きく現町長の片腕として遺憾なく町務を處理してゐる、併し事務に精通した人物は世事にうといと言ふ事もあるが氏はそうした缺點もなく極めて誠實に事務を取つてゐる。

町會議員

伊藤平吉氏

少壯有爲の士として現代小野田町に活躍し町會議員に當選した事は初回であるが將來は又大いに囑望され次期選擧にも當選は可能と見られてゐる、現在人造肥料株式會社の請負業をなし、公職としては消防部長をつとめてゐる、義俠に富んだ勇肌の稀に見る快男子である。

町會議員

伊藤敏輔氏

小野田町の元老にして醫師を業とし溫厚篤實なる老名士である、各種公共事業には率先して力を致し又後進には極めて親切である、町會議員に當選する事前後二回町政に貢獻した事も著大である、又非常に情誼に厚く町民の信望も大きい老名望家である。

町會議員

井上文七氏

小野田町の生字引とも言はれてゐる老町政家で議員に當選する事數回、町政につくした事も著大であるが小野田町民として特に忘れ得ないのは先見の明を以つてセメン町に私設上水道を敷設した事である、それによつて受けたる町民の福利は極めて大であつた、現在は小野田の事業から引退して酒に親しみ悠々自適の餘生を送つてゐる。

町會議員

波多野尙輔氏

小野田町大日本人造肥料株式會社の工場長である、氏が今日の榮轉は決して偶然でなく涙の滲むが如き尊い努力がある、始めセーミ會社の昔から一社員として入社しそれ以來は一切の私事を忘れて一意專念會社の爲めに全精力を盡し續けて現今に及んだのである。

町會議員

保科銕治郎氏

小野田セメント製造株式會社の常務取締役であり町の老名望家である、會社にありては一意誠意を以つて社務に服し、數千の職工からは慈父の如く慕はれてゐる、溫厚篤實なる人物である、町會議員の職に就いたのは初めてゞあるが町政上には極めて著大なる事蹟を遺してゐる。

町會議員

大井太郎氏

長陽酒造株式會社の社長であり地方の名望家である、町政上には最元老を以て目され町政萬般に渡つて精通し將來の延びて行く生命も極めて大なるものがある、町會議員としての公職も非常に長く精力絶倫なる大手腕家である。

町會議員

大井重一氏

町政客としては若手組であるが年未だ若きに似ず非常に溫厚であり篤實である、町會議員としての公職は初めてゞあるが洗練されたる崇高なる人格は何人も引きつけずに置かない優しさを持つて居る、現在は百十銀行小野田支店に勤務して居る。

町會議員

奥龜千代氏

山口縣に於ける多額納稅者であり立憲政友會の山口縣支部黨務委員である

町の大先輩で町會議員としての生命も非常に長かつた、各種公共事業並に社會事業につくした功績は町政上につくした功績と共に永く町民の忘れがたい記憶となるであらう、顔一杯に温情をたゝへた親しみ多き人格者である。

町會議員

津田玉平氏

身は藝妓の置屋業をして居るが恁うした社會に見る事の出來ない温厚なる人物である、區の世話に至つては常に身を忘れて盡力し區民からは父の如く信頼され切つて居り、自己の職業に就いては改善進歩に全力をつくし常に身を以つて事に當ると言ふ熱心家である。

町會議員

中村善一氏

町會議員に當選する事前後二回、若は常に全力をつくし社の進展に努力して居る手腕家である。

町會議員

繩田善藏氏

現小野田町セメント町に湯屋を開業し温厚を以つて生命として居る一の好身をおさめ今では財にもめぐまれて居る。

町會議員

野田忠治郎氏

木材業を家業とし、町會議員となる事數回町政上の元老であり又小野田實業界の長老である、町政上並に實業界に起りたる事は如何なる難問題でも氏が一度び起つて事に當れば直に氷解して春の如き温かさを人に與へる特長を持つ地方稀に見る德望家である、貴公子然たる其風丰と相まつてまさに好個の一偉丈夫であり紳士である。

町會議員

山形松太朗氏

得て請負業者には手腕家が多いのであるが氏に至つては其上乘なるもので

ある、敏腕の蔭に崇高なる人格を藏し事々に遺憾なく之を發揮して居る、町政上には一方の闘將で正義に當つては何人にも屈せぬ義俠的精心を以つて進み常に公道を歩んで居る、現に大日本人造肥料株式會社の請負業をなし家庭にあつて趣味として骨董物を愛し目下藏品數十萬圓と言はれて居る。

町會議員

山根貫一氏

氏は退役陸軍歩兵少佐である、掌つては小野田町の在郷軍人小野田分會長をつとめて居た事もあり今では同會の顧問をつとめて居る、町會議員となつたのは初會である。

町會議員

藤井善助氏

製陶業が其家業である町會議員となる事數回、同町會の寵兒である、氏の愛好物に馬と酒があり愛馬家の氏としての人物には既に定評ありて駄辯を要せず、酒を愛しては稚氣滿々として老齢を忘れ人に一種の愛着を感せしめる一個の快男子である

町會議員

江本國一氏

町會に於ける闘將を以つて自他共にゆすらず、あくまで意志を延べてゆく人物である、議員としての公ゆるす若手組のやり切家である、自からが是と信じたる事は何人の對しても職は未だ初期であるが將來には尙多くの希望と期待を以つて居る、其家業は製陶業にして家庭に於ける氏は極めて温厚で書畫骨董を愛翫して居る。

町會議員

酒井良三氏

小野田郵便局の局長にして議員生活は初期である、通信事務にたづさわつては極めて熱心で良局長としての聲望は極めて至大である、町會にありては温健なる中堅組として新論公平兼望又氏に集り温厚なる紳士としての名に背かぬ篤實なる人物である。

小野田セメント製造株式會社の社員であり町會議員としての公職は初期である、極めて勤儉な人物で其ふり出しは職工である、蓄財を唯一の趣味として居る。

町會議員
佐々木三四郎氏

温厚篤實と言ふ文字を用ふるなればほど氏は温厚な人格者である、町會議員に選ばれる事前後二回尙將來大人の希望と期待とを其胸に秘めて家庭にあつては書畫骨董を愛翫して居る、小野田醬油株式會社の社長にして屈指の累封家である。

町會議員
佐藤嘉助氏

氏に最もよく適合するであらう、それほど氏は温厚な人格者である、町會議員に選ばれる事前後二回尙將來大人の希望と期待とを其胸に秘めて家庭にあつては書畫骨董を愛翫して居る、小野田醬油株式會社の社長にして屈指の累封家である。

町會議員
北隅龜藏氏

町政に參與する事前後二回である、家業は鹽元賣捌店である、細事に忠實でよく町の爲め人の爲めにはたらき町政にたづさわつては中間派を以つて目されて居る。

町會議員
城戸善九郎氏

町政に參與する事數回、現在は町會議員の他に宇部市を中心として一市三郡の漁業聯合會の理事をつとめ、同町刈屋魚市場の事務に携さわつて居る、漢學に造詣深く書畫をよく地方希に見る篤學者である。

町會議員
三戸又一氏

町會唯一の勞働階級より選出された議員である、小野田セメント製造株式會社の一職工として今から十餘年前採用され現今迄一意專念勞力を盡して居る、町會に出でた事は初期であつたが町政上にのこされた氏の印象は長く消えないであらう。

町會議員
姫井伊介氏

農村經濟家として弘く縣下に知られ又社界事業家としても殆ど氏を知らぬものはないであらう、それほど氏は現在社會の經世家である、温厚なる事駄筆にては表現し得ない事である、現に縣會議員の職にあり縣政界の白眉である、家にありては製陶組合の理事をつとめて居る。

名望家
笠井眞三氏

小野田町屈指の名望家にして小野田セメント製造株式會社々長である、小野田町のセメント會社がセメント會社の小野田かと言はれるくらい全國的に名のひゞいた大會社を背景に持つほど氏の人物は大きいのである、初め山口高等商業學校を卒業して直後獨逸に留學し歸朝後セメントに關する論文を提出して博士となり我國セメント製造界の最大權威者として重きをなして居る。

名望家
廣澤豐作氏

山口縣政界に重視され社交的技倆を多分に持つた小野田町屈指の名望家である、前山口縣會參事會員、山口縣醫師會長、小野田消防組々頭、醫學士現私立小野田病院の經營者であり同院の院長である、政治に深い理解を持ち圓轉骨脫人に深い親しみをいだかせ所謂政治家タイプを多分に持つた同町の元老である。

會社員
江本繁藏氏

氏はかつて小野田町々會議員たりし事あり町政界に明るい人物であつて現任である、資性極めて温厚にして獨逸へ見學に行つた事もあり同會社の信任厚き前途有爲の人物である。趣味として謠曲に堪能である

會社員
朝枝信太郎氏

氏帝國大學出身の工學士であつて小野田セメント製造株式會社の營業部長である、上下の氣受非常によく其前途を嘱望されて居る、資性温厚にして近代的タイプを持つた紳士であり趣味としてスポーツを最も好む。

會社員

氏は現小野田セメント製造株式會社の

狩野宗一氏

會社員

資性極めて溫厚なる君子人であつて帝國大學出身の工學士である。常務取締役であつてよく社長を補佐し社運の進展に功績を上げた人である、

氏は大日本人造肥料株式會社小野田工場の工場長代理を勤めて居るが頭腦最も明晰にして職務に忠實であり資性も又極めて溫和、上下に氣受のよき人物である、スポーツに非常なる趣味を持つて居る高等工業學校出身の篤實なる紳士である。

神田氏

會社員

氏は大日本人造肥料株式會社小野田工場の庶務課長である、出身地は長府にして久々軍務にあり現在は退役陸軍歩兵少尉である、かつては町政に參與した事もあり又在鄕軍人分會長を勤めて幾多の功績を殘こして居る、資性極めて放膽磊落、細事にこだわらず、情誼に厚き君子人である。

久賀又一氏

會社員

氏は大日本人造肥料株式會社小野田工場製陶所主任である、資性溫良にして極めて交情に厚き君子人であり又深く政治に理解を持ち町政に對しても相當の希望と識見を持つて居る

勝原良介氏

氏は在鄕軍人小野田分會の幹部であり陸軍歩兵少尉である、かつては帝都最高學府に籍を置き勉學中不幸嚴父の仆に遭遇し業半ばにして歸鄕家督を繼ぎ爾來家庭を統制するかたはら現在では町役場に勤務して居る、資性極めて溫厚にして其交際振りも非常に洗練されて居り誠に立派なる紳士である、年齢未だ若けれど將來は町の中堅人物となりて活躍される事は期して待つ可きである。

山田正武氏

氏は現在小野田町信用組合の組合長であり、かつては町會議員たりし事もあり消防組々頭も勤めた事もある、資性極めて勤儉にして理財に明るく溫厚なる町の元老である。

西村孝一氏

氏は小野田町信用組合常務理事であるかつては町政に參與した事もあり非常に町政に明るき人物にして資性極めて溫厚圓滿なる性格の所持者である、年齢やうやく初老に入りて智識の最も洗練された君子人である。

櫻井茂一氏

氏は小野田町有志間の名物男を以つて呼ばれる風流人である、資性極めて磊落、ものにこだはらず、途上人にあつても先づ話をする前に俳句を作ると言ふ變り者である、家業は人を素裸にして濱世を送ると言ふすこぶる奇拔な營業をして居る。

大池忠藏氏

實業家

氏は少壯有爲にしてすこぶる雄辯家である、家は製陶業であるが業務に從事するかたはら政事の研究に沒頭しやがて之を實地に應用すべく其機の至るを待つて居る、資性極めて快活にして政治家としてのタイプを供へて居る。

城村憲治氏

實業家

氏は小野田町の最も若手實業家である彌五郎は父の名を襲名したのであるが其動機は父の事業を受繼ぎて父以上の功績を上げ以つて家名の振興を計るを念としたのである、資性極めて勤勉にして溫和な當世にては稀に見る模範的青年である。

古川彌五郎氏

篤農家

氏は非常に熱心なる農事研究者である農村からは拔けだす人物の多き内に氏の如きは稀な篤農家である、氏は又其餘暇に町政の問題を深く究明し來る可時機に於て大いに農村振興

原田作一氏

の雄叫びを上げんとしておる。

實業家

藤本兼吉氏

小野田町實業界の元老である、現在は製材業を營みて家産も積んで居るが十數年前文字の如く裸一貫にて同町に來りそれこそ血のにじむ樣な奮闘と努力によつて今の位置になつたのである、資性極めて温厚で世話好であり又理財の術に長じて居る

實業家

上杉嘉平氏

小野田町有數の呉服店棟近呉服店の店主である、商業家の素質を充分に持ち極めて眞面目な人物である、同店の今日あるは全く氏の經營宜ろしきを得たが爲めである、交情に厚く理財に長じた人物である。

刀圭家

田村兵三郎氏

地方刀圭界の元老である、久しく軍醫として陸軍部内に居たのであるが十數年前町の人となり地方に非常なる力を致した人物である、資性極めて温厚であるが、又おかしがたき氣風を供へ將來は町政界にも進出す可き人物である、現在は小野田町在郷軍人分會長である。

教育家

繩田総一氏

氏は小野田尋常小學校々長であり極めて温厚なる教育家である、其振り出しは明治三十九年山口師範卒業後に始まり暫時昇進して郡下吉田小學校、生田小學校、藤山小學校等各校の校長を歴任して現任地に赴任したのである、資性極めて温良にして兒童父兄の氣受も極めて良好である。

教育家

浴金治氏

氏は明治四十年山口師範學校を卒業し同年熊毛郡城南小學校に奉職したのが教育界に身を投じた振り出である、同郡宮本、久今其他各村小學校の校長を歴任し阿武郡々視學となり美祢郡々視學を經て現小野田尋常高等小學校の校長となつたのである、教育界にある事實に二十四年間の久しきに及び其間一意兒童の薫陶に精心をもちい縣教育界に多大の功績を上げた人物である。

實業家

伊藤權重氏

氏は極めて温和なる中年の實業家である、現在は小野田町にて回漕業を營んで居るが業務に對しては極めて忠實である、又一面温和なる中にも進取的氣風を藏してたへず機を待つて居て其手腕を振るはんとしてゐる。

實業家

松富喜介氏

氏は現在小野田自動車株式會社の社長として大なる手腕を振るひつゝあり交通補助機關として民衆に一大恩惠を與へてゐる、資性極めて温落にて名利を追はず、二十年の久しき間海軍の軍籍に身をおいて居た人物で退役して歸郷するに及び自ら一線に立つて海友會を起して同會の幹事となつて海事思想の普及に盡力してゐる。

實業家

河村幸之進氏

小野田町少壯實業家として大いに將來を嘱望され實業界は元より、町政界にも羽翼を延ばすべき人物である、手腕の程は未だ未知數にぞくすれども民衆から非常に期待されて居る現在は家庭で醤油醸造業を營み極めて忠實に從事して居る。

小野田署長

渡邊喜一郎氏

終始一貫不撓不屈の精心を以つて常に正義に立却し民衆保護と部下の指導して刻苦精勵されつゝある小野田警察署長渡邊喜一郎氏は昨年現任地に赴任されたのである、氏は數年間官界生活に身をおいて常に至誠の精心を以つて治安維持の重任に當つて居る。

氏は小野田實業界の模範的大人物であ

實業家
白川越一氏

る、實業界に大なる功績を上げるは勿論なるが又公共事業社會事業等に非常なる盡力をされて居る、資性甚だ義俠に富み其部下を愛する事實子の如く、又部下からも慈父の如く親はれてゐる、名利を追はぬ温厚篤實なる人格者である。

實業家
森本作治郎氏

剛健なる氣風の持主で現在小野田實業界に重きをなして居る人物である、鐵工業製氷業等を營んで部下數十人を有してゐるが極めて温健に部下を指導啓發してゐる、資性極めて剛直正義に邁進する人物である。

名望家
藤井伊三郎氏

前助役として町政上に大なる功績をのこした老町政家であるが今は靜かに退ぞいて園藝等に親しんでゐる、併將來に向つては尙希望と期待を持つて機至らば今一場の大活動を辭せないだけの抱負と識見を持つて居る、併し名望家としての名に背かぬ温厚なる人物である。

名望家
縄田半藏氏

前町會議員にして現小野田都市計畫委員である、人となり極めて情誼に厚く又温和なる事靜かなる海洋の如き人物である、併し温和なる中にも一種の進取的氣象を持ち尙幾多の希望と期待を胸に秘めて靜かに機の至るを待つて居る。

教育家
中川敏亀氏

氏は小野田實業實踐學校の校長である、温厚篤實なる人物で教育家として實に得がたき人格者である、常に學校に於ける教授を机上の空論に終らせないで實際社會に力あるものとして活かしたいと一意專念實力教育の普及に精心を傾到して居る。

恁うした努力によつて將來大實業家を我小野田町から出さんとして日も足らぬ程の精進をして居る稀に見る篤學者である。

名望家
縄田正治氏

小野田町の老名望家、同町初期町長として令名のある人格者、村から町にしたのも同氏の功勞である、隨つて村としての最終村長であつて町となるにのぞんで初期町長となつたのである、今は煩鋏なる社會からのがれて靜かな餘生を送つて居る。

名望家
黒瀨義太郎氏

前町會議員にして大地主、町内屈指の累封家である、前信用組合長をつとめた事もある極めて温厚なる人物であつて理財の手腕大きく又將來に對しては幾多の希望と期待を持つた農村には稀に見る熱心なる農村振興論者である。

名望家
江本易太氏

小野田町内隨一とも言ふ可き人格者にして又累封家である、温厚一方の人物で慈善事業等には一方ならぬ盡力をし衆望も又甚大である、名利を追はず信仰に厚く、又得がたき人物である、家業は酒造業である。

實業家
財滿一熊氏

氏は長府の出身であるが數年前小野田町に工業藥品の店舗をかまへ爾來一意町の爲めに營業を續けて居る、實業家として洗練されたる實に圓滿なる人物である、資性温和にしてよく町内の公共事業に盡し氣受のよい人物である。

宗教家
橋本直一氏

氏は金光教布教師として數年前町の人となり其後專念布教につとめ現今では多數の信者を得てゐる、極めて信仰に厚い宗教家として申分なき人物である、資性極めて温和で、現在厚美郡の布教師である。

氏は郷社赤崎神社の社司である、年

繩田信夫氏

齢未だ三十路の坂を二つ三つ越たばかりの人であるが社會事業に志厚く數年前より幼稚園を創立して自から園主となり、一意專念兒童の養育につとめておる、資性極めて温厚である

厚狹郡高千帆村

位置 厚狹郡の中央にあり東北は同郡厚東厚南舟木各町村に接し西南は生田村に接す、最南部は細長く延出して海に濱しはるかに筑豐の諸山を望む。

面積 宅地 二一六、〇八四坪　田地 七四四町三三一八
畑地 一一八町八三二九　山林 六六〇町七七二九

戸數 一、七三九戸　人口 七、九九九人

歳出入 六七、四三七圓

郷土の人々

村長 井上陽一氏

氏が村長として就任したのは未だ初期であるが村政上には非常に大きい功績をあげつゝある、同村は從來幾多の政當局に當る者の頭をたへず惱まして幾度も自治の派をつくりて村政當局に當る者の頭をたへず惱まして幾度も自治の行きなやみをして居たのであるが氏が村長の職に就くに及びて一意民意の統一をはかりて美事に成功し暗雲にとざゝれつゝあつた自治体に一の光明を與へ村政も圓滿に行こなはれてゐる、村民の信望も厚く名村長としての名をはづかしめない、村の誇こりとするに足る人物である、資性極めて温和多趣味にして、彫刻に至りては堂に入つたものである。

助役 藤田與平氏

村の元老にして又篤農家としても村人から推稱されて居る、助役となつたのは初期であるが名村長井上氏を助けて女房役たるの手腕を發揮して村治上に大きい功勞を上げて居る、資性極めて温良にして何人にも深い親しみを與へる人物である。

村會議員 伊藤康平氏

村會に於ける闘士として自他共にゆるした人物である、村會議員としての職は二回である、資性至つて瓢稈である。家業は精米業である。

村會議員 伊藤仙次郎氏

老年組であつて好々爺である、村會に對してはよくつとめ村政に參與して居る、家業は精米業である。

村會議員 長谷川宇一氏

村會議員としては初期である、農村に於ける篤農家として知られた人である、資性温良である。

村會議員 西村市太郎氏

刀圭家にして村會議員中の花形である、村政に參與する事は未だ初期であるが尙ほ將來には幾多の抱負と希望を有してゐる、資性極めて温厚篤實にして村の君子人である。

村會議員 河口万助氏

村會議員としては初めである、すこぶる温健な人物であつて村政上に多く職業として炭坑業をやつて居る。意見を用ひず深く沈默を守る人である

村會議員 河村藏助氏

剛放にして磊落村會切つてのやりきりものである、一旦自身で恁うだと思氣を持つてゐる、闘士として將來尙幾多の春秋を藏して居る。趣味としては政治が三度のお飯より好きと言ふ人物である。つたら矢でも通すと言ふやうな強い元

村會議員 米田新次郎氏

農村に於ける商業家であり、非常に忠實な勤勉家である、村會議員となり

し事は初めである、資性温和である。

村會議員
田邊仁平氏

村會に於ける若手組の一　である、消防組頭をもつとめて居る程の農村の新人にして前途尙幾多の春秋に富んでゐる、職業は製陶業である。

村會議員
高橋清治氏

高千帆屈指の人格者である、村政にたづさはる事は初期であるが其村政につくした功勞は實に大である、現に同村興風中學校の教員で資性極めて温厚篤實で高潔なる教育家的タイプを供へた君子人である。

村會議員
繩田甚之進氏

茶目氣分を多分に持つた村の古老である、何事も氣輕に運び談話をしても人に氣輕い氣持を與へる、質素な事も此上なく常に綿服をまとい杖を携ふ、趣味として談話を好む。

村會議員
向井佐太郎氏

村會議員としては初期であるが、極めて實直な事務家である、資性温厚にして友人に對して情誼極めて厚く又何人に對してもへだてを置かぬ圓滿な君子人である、現百十銀行小野田支店長である。

村會議員
山田茂一氏

はつきりとした明るい氣分の人物である、村會の人となりては初期である現在は米穀審査員をつとめ大なる活動家である、家業は農業である。

村會議員
柳井美作氏

村政に參與する數度、村治上には極めて大きい功績を上げて居る、蓄財的手腕の大きい人物である、現在宇部銀行高千帆支店長である。

村會議員
宮本實治氏

高千帆村に於ける大隈と評判のある人物で辯論のたしかな人である、前村長にして刀圭家、村會議員の職に就く事も數度である。

村會議員
新藤末作氏

常に東奔西走席の暖たまる暇もないほどの大活動をする農村に於ける實業である、村政に參與する事は始めであるが、非常に緻密な頭腦の持主であつて村政上に貢獻する事極めて大きい。

村會議員
下井音之進氏

村會に於ける沈默組の一人である、極めて農事に對する研究心の強い篤農家である、資性極めて温良にして勤勉家である、初期議員

村會議員
平岡平熊氏

村會議員としての生活は初期である事に當りては剛健に於て何事にも屈せず、人に接しては磊落にして義俠に富み高尙なる俠客肌の人物であるがそれ等職工からは慈父の如く敬慕されの職工を從業せしめて居るがそれ等職工からは慈父の如く敬慕されて居る。現に小野田陶器組合の理事をつとめ、趣味として淨瑠璃を唯一の樂しみとして居る。

名望家
中村康四郎氏

氏は小野田町漁業組合理事城戸善九郎氏の息にして其少年時代秀才を認められて養父源兵衛氏の懇望により迎られて中村家の養子嗣となつたのである、帝都に出でゝ勉學中不幸嚴父の病患により業半ばにして歸鄉し郡制廢止前郡書記を奉職しかたはら嚴父に孝養をつくし家政の整理につとめた、併し氏の誠意も空

しく數年前嚴父の仆にあい家督をついで爾後一意家庭にあつて嚴父の遺訓を守り只管自重の生活を送つて居る、現在は同村隨一の大地主であり素封家である、資性極めて溫厚にして年齡未だ三十餘歲健こやかに延び行かんとする氏の前途は實に洋々たるものがある、鄕土の誇りとして氏の面影を仰ぐ日もけだし近き日に來る可きを信じてうたがわぬ。

前助役

長田吉良氏

同村唯一の篤農家である、近時農村の日に疲弊し行くをなげき自から身を挺して之が振興をはからんとして口を大にして之を呼ぶと共に身をも勞し其實績を上げんとつとめて居る資性極めて剛健にして年やうやく老境に入らんとするも尙ほ未だ元氣壯者をしのぎ日々强く勞力による奉仕をつゞけて居る。

名望家

椿魁弼氏

地方屈指の刀桂家にして其名は廣く縣下に知られたる縣醫師界の君子人である、資性極めて溫厚篤實患者に接しては慈愛深き父兄の如く親切であり人に接しては極めて快活に談笑して之を導くが如く淳々として說き且つ談じ時間の經つを忘れしめる程である、談たま〳〵現下政界の事情に及べば涙をふくみて其腐敗墮落をなげき黨弊の地方にまで及ぼす害毒を難じる等何時談のつきるかを知らず其熱心さは眞に志士の如き悲壯なる氣分を聽者にいだかしむ、從來は只管業務にのみ沒頭して他を顧みなかつた氏も將來は奮然起つて暗雲にとざゝれたる政界に一大覺醒を與ふ可き希望と抱負を深く其胸底に秘めて居る。

刀圭家

赤川勝氏

少壯氣鋭の地方刀圭家である、自治につついての理解極めて深くやがては大いに羽翼を延ばすべき素質を多分に持つて居る人物である、資性極めて剛放磊落細事にこだわらず、特に柳暗花明の巷に咲く花の香に深き愛着と興味を持ち猛者としての名友人間に高く持てはやされて居る、近代的タイプを供へた紳士である。

實業家

內田啓一氏

高千帆村實業界の重鎭であり、家業は製陶業を營み忠實なる地方實業家であ、將來は村政にもたづさわるだけの地方自治に對する理解を持つて居る資性極めて溫和である。

實業ヤ

津田政吉氏

氏も矢張り高千帆村實業界の重鎭であり家業は製陶業である、村治についての理解も極めて深く資性又溫厚篤實にして人に接しても常に快よき感じを與へる圓滿なる君子人である

實業家

西村金作氏

高千帆村有數の雄辯家である、陸軍々務にある事十數年歸鄕後製陶業を始めて現在に至る、在鄕軍人高千帆分會長をつとめ鄕黨の信望極めて厚く又政治に深き理解と趣味を有し地方の溫厚なる君子人である。

實業家

伊藤實氏

高千帆村唯一の少壯實業家である、醬油釀造業を家業とし其販路も極めて廣く年若きに似ず冴へたる手腕を振るつて居る將來は村政界にも羽翼を延すであらう、因に氏の釀造して居るのは龜甲い醬油である。

安田利八氏

氏は土木建築請負業をなして關西に於ける斯界の權威として奮鬪しつゝあり幾春秋刻苦精勵波瀾萬重遂に今日に至る氏は全關西に亘つて取引を有し大なる業績をのこして居る、資性極めて剛膽にして一種の俠骨漢である工事の完成に就いては死力をつくして之に當ると言ふ熱心家である。

名望家

上田正一氏

高千帆村々政界の元老であり前村長である、村會議員の職に就いたる事も數度あり、年齢當に老境に入らんとして居れど元氣尙ほ壯者をしのぎ氣焰萬丈當たる可からざるものがある、今は靜に養つて爪を磨ぎ機の至るを待つて居る。因に同村小學校講堂の建設は氏の殘こした功績である。

河野光藏氏

氏は高千帆郵便局々長である、通信事務に熟達した良局長であり資性も極めて溫良、そして人に對しても至つて物やわらかな人物である。

教育家

山根文平氏

氏は高千帆村興風中學校の校長である頭腦極めて明晰にして理智に明るく一私立中學校の校長としては誠におしき立派なる教育家である、學生は固より父兄の間にも非常に尊敬を受け同校始まつて以來の名校長と言はれて居る、資性極めて剛健且つ太腹の人格者で政治家としての性格も供へ談話も又極めて剛放である、氏は又只に學校内の教育家たるに滿足せず廣く社會に向つても其理智を働らかし大いに指導せんとの抱負を有して居る、鄕土に於ける誇る可き人格者である。

緒方爲之氏

氏は現在興風中學校の理事である其のどん底にあつた同校の理事となり百方盡力して氏の力により再生本庭は厚狹町であり久しく軍籍にあつた人である、歸鄕するに當つて當悲境の光を與へ今日の如き隆盛に導いたのである、資性極めて剛膽にして磊落政治にも深き興味と理解を持ち自から當つて見やうとの希望も有す、今將に初老に入らんとする油の乘り切つた智慧の出ざかり働らきざかりの敏腕家である。

刀圭家

村田保雄氏

小野田町刀圭界少壯氣鋭の士である新潟醫專を卒業後各地の病院に奉職し手腕を練磨したのち數年前町の人となつたのであるが資性極めて溫厚篤實であつて年未だ若きに似ず交誼に厚く人物も又大であつて患者の氣受等も非常によく實に圓滿なる人格者である。

刀圭家

吉屋茂一氏

溫厚篤實なる少壯刀圭家である、十數年前業成りて歸鄕し同町に開業したのである、爾來一意患者の良友となつて洗練されたる手腕を振るひ爲めに救くはれたる人は實に數へ切れぬ程である、資性極めて溫和にして家庭をとゝのへ趣味として謠曲をよくす。

實業家

錢谷高一氏

氏は町の元老でありかつては町會議員として町政上に參畫した事もある非常に町政に理解を有する人である、現在は刈屋漁業組合の理事をつとめて居る、資性極めて磊落にして現に水産業に從事して居る又消防部長を永年つとめて居る。

同　生田村

地勢　生田村は厚狹郡最南部に位し海岸に面して風光明眉な村である、東西三十町南北二里耕地四百六十町歩、山林八百十三町歩

人口　四、〇〇〇人　戸數　八三〇戸

歲入出　三七、四七八圓

村長

大田貞吉氏

村を支配する人々

氏は六十八歲の老齡であるが極めて强壯であり資性も又溫厚である、村長

の職は初期であるが其以前市町村制實施前より明治三十二年迄十六年間村役場へ奉職し書記より收入役迄なつて退職し三十二年より大正十二年迄小野田銀行埴生支店長をつとめ同十四年より現職に就いたのである、かつては郡會議員を一期つとめた事もあり現在では農會長、村會議員を兼任してゐる。

助役

須子清信氏

氏は教育家を志して教員生活を二十六年間送り各地の校長を經て同村役場に入り收入役より現職に就任したのである、資性極めて溫厚な人物であつて齡未だ四十八歳、村の中堅として村民の信望極めて厚い人物である。

村會議員

農業	三期	六十三歳	川口秀夫
商業	初期	四十七歳	田村利三郎
地主	五期	五十四歳	關谷寛治
商業	二期	四十五歳	清水寛助
商業	初期	六十歳	山崎宰太郎
商業	初期	五十二歳	清永米藏
商業	初期	五十五歳	八橋久吉
農業	初期	五十歳	笹尾益太郎
農業	初期	四十五歳	佐々木正一
農業	初期	五十八歳	兼石吉太郎

（定員十二名、一名欠員、一名村長兼任）

名望家

竹山健三氏

氏は同村屈指の名望家であり又村政通である、かつては村會議員を二期もつとめた事あり、現在同村消防組々頭で家業は酒類醸造業である、齡未だ四十七歳村の中心人物として氏の今後は村民に多大なる期待を以つて見られて居る。

厚狹郡吉田村

厚狹郡の西南部にあり海より稍はなれた地味豐饒なる盆地である、西北端は豐浦美禰兩郡に境し東南端は同郡出合、生田王喜三村に接す、

地勢

面積 一、一九平方里　東西二里、南北一里二五町

戸數 五四二戸　人口 二、五六五人

歳入出 二四、三四八圓

同村は往年高杉晉作の奇兵隊が屯營せし處とて其當時の剛健なる氣風を受け繼ぎ村民一体に質實剛健にして村内全般活氣滿々たり進取的氣風に富む。

村を支配する人々

村長

久保作太郎氏

氏は將に老境に入らんとして居る六十七歳の高齡であるが元氣未だ壯者をしのぎ溫和なる風貌の中に古武士の面影を持ち性謹嚴にして剛直である、村長の職は初期であるが極めて地方自治に明るく郡會議員となりし事あり村會議員は三期目にして現職兼任である、家には酒醸造業を營み極めて高潔なる君子人である。

助役

金子茂作氏

氏は地方自治に精通した村政家である、前村會議員を二度つとめた事あり現職は三期目であり役所生活實に二十三年の久しきに及ぶ、資性快活情誼に厚く交際の術に長じて人に明るい感じを抱かしむ。

村會議員

農業	再選	四十一歳	礒部助一
賣藥業	新選	四十歳	竹田郁三

釀造業	新選	五十五歳	神田榮槌
金融業	新選	五十七歳	藏本安太郎
鑛業	新選	四十三歳	鑄谷晋作
海運業	新選	六十四歳	寺井信治郎
農業	新選	三十九歳	重好大吉
農業	新選	五十五歳	河内佐太郎
商業	新選	六十三歳	菊地啓作
農業	再選	七十七歳	濱野林兵衛

（定員十二名、一名欠員、一名村長兼任）

名望家	醫師	五十七歳	仁專勉造
名望家	醫師	五十一歳	佐々木辰實
名望家	醫師	三十一歳	安代茂

厚狹郡王喜村

地勢 厚狹郡の西端にあり東北は同郡吉田、生田の二村に接し西は吉田川をへだてゝ豐浦郡小月町に接す、南は瀨戸内海に濱してはるかに筑豐の諸山を望む、周圍四里四町二〇間

面積 一、三七平方里、東西三三町三六間、南北一里、五町五六間

戸數 四〇八戸　人口　二、三一七人

歳入出 一〇、一一四圓

村を支配する人々

村長　門田大助氏

氏は明治五年生である、久しく教員生活を爲して各地を轉任し後歸郷して村の人となり溫厚篤實衆望を得て村會議員に選ばれる事も前後二回村長も二期目にして、現村會議員兼任である、極めて德望厚き君子人で村人からは父の如く親はれて居り地方自治に明るい人物である。

助役　林正一氏

氏も又村長ににおとらぬ德望家である村會議員兼任で助役は未だ初期である明治十年生れで當年正に五十三歳の智惠ざかりであり村長の補佐役としてよく其責任を盡して居る。

村會議員

農業	二期	木藤米太郎
農業	初期	中山梅藏
農業	初期	山下永藏
陶器製造業	三期	伯野濟
教員	初期	木村茂一
農業	初期	德永駒太郎
農業	初期	藤井彌一
農業	初期	弘中和三郎
農業	初期	伯野助一
農業	初期	宮崎辰三郎

（定員十二名、村長助役兼任）

名望家

伯野耕作氏

氏は同村屈指の名望家であり大地主である、自治に極めて明るく元縣會議員をつとめた事もあり、村長は實に四期の永き亘ってつとめてある、資性極めて溫厚で今は名利の巷から退って閑かに餘生を送って居る。

厚狹郡小野村

地勢 厚狹郡最東端に位し東北は吉敷美禰二郡に境し西南は厚狹郡吉部二保瀨南村に接して居る、厚東川の上流にあり四面山にかこまれて廣き事郡内第一である

面積 東西二里、南北三里

戸數　八九〇戸　人口　四、四七七人
歳入出　五七、〇〇〇圓
里想、衛生常態共に良好で農産物豐富である
村を支配する人々

村長　**伊藤仁三藏氏**

氏は同村屈指の大地主であり同時に名望家である、村長は初期であるが村會議員は二期つとめ現に兼任である、別に農會長、信用組合理事を兼任し、かつては郡會議員をつとめた事もある、齢五十六歳尚多大の識見を以つて村内の平和維持につとめて居る。

助役　**末田良三氏**

氏は本年四十八歳非常に温和なる人である、十六歳の時役所に入り爾來一意村政事務にたづさわり連續實に三十三年間に及び書記收入役を經て現職に至る、昨年縣より表彰さる。

村會議員

前村長	三期	慶應三年生	林本介
村醫	二期	五十一才	粟屋術藏
農業	初期	四十才	田中此弍
前助役	再選	慶應三年生	中原龜尾
書記	新選	五十四才	柴川助太郎
農業	新選	五十六才	井原貞吉
書記	新選	四十六才	藤村染
農業	二期	五十三才	野村善治
農業	新選	四十四才	溝部始一
農業	新選	四十九才	山本善左衛門
釀造業元教員	新選	四十七才	竹内浪太郎
農業	新選	五十才	井上善之進
農業	新選	三十四才	常田茂采
元縣議醫師大地主	二期	六十三才	佐藤良策
農業	新選	五十三才	深井市松
農業	新選	四十三才	松永禎助

（定員十八名、次員一名）

名望家、信用組合組合長　鹿野至曉
名望家前村會議員酒造業　武安恒亮
郵便局長

同　厚狹町

位置　厚狹郡の中央部を南北に貫通し東は同郡高千帆舟木万倉の各村に接し北は美禰郡東厚保西は出合生田の諸村に境し南は海を隔てゝ遙かに豐前に對す地形南北に長く東西に狹し南北の最も長きは四里十町に及び東西の最も狹きは十町に過ぎず

面積　二、二三方里　東西〇、里二五町　南北四、里〇〇町

戸數　一、九七九戸　人口　八、五五四人

歳入出　七八、〇〇五圓

町を支配する人々

町長　**名和田豐作氏**

氏は同町の德望ある醫師にして現に同町に醫院を開き厚狹火藥會社の囑託醫であり醫師會々長である、年齢五十五歳高潔なる温厚篤實の士でかつては軍籍にあり在鄕軍人厚狹郡聯合分會長をつとめて居る。

助役　**西原常松氏**

氏は事務に極めて堪能なる敏腕家である明治三十七年より役場に入りて實に二十數年間順次につとめ上げて現職に及んだので當期は其二期目である、年齢五十九歳當に老境に入らんとして居るが元氣未だ壯者を凌ぐの概あり。

村會議員

農業	再選	四十一歳	今橋重一
商業	初期	四十九歳	花本文作
運送業	初期	五十一歳	河口利一
農業	初代町長名望家	四十九歳	角野吉藏
製材業	新選	六十歳	中原篤之助
局員	新選	四十三歳	原梅槌
社員	新選	四十七歳	山本平一
商業	新選	四十四歳	柳谷恒助
農業	新選	五十二歳	福江作藏
農業	再選	五十歳	枝村要作
醫師	新選	四十歳	枝村善雄
農業	再選	六十歳	笹木卯三郎
局長	新選	四十五歳	桐原直道
農業	新選	四十九歳	三田筆助
農業	新選	三十四歳	仁田藏一
海産業	新選	四十二歳	平原耕資

（定員十八名、一名欠員、一名町長兼任）

名望家、酒造業、前縣參事會員　永山惣五郎
名望家、陸軍少將、火藥會社々長　平瀬碩六
厚狹高等女學校々長　定近曹一

同出合村

位置　厚狹郡南部にあり北端は直に美禰郡に境し東南端は厚狹町に接す、西部は吉田生田二村に面し土地一般に平端にして耕作最も盛んなり

近時厚狹町との合併問題起りやうやく身体化して來たので其實現も遠くはないであらう。

面積　一、二八三方里

戸數　四一六戸

人口　二、二五〇人

歳入出　二〇、七三三〇

村を支配する人々

村長　藤重唯佐氏

氏は同村屈指の地主である、敎員生活をする事二十數年各地の校長を歴任して奉職し一期つとめて現職に及び既に二期をつとめて居る、年齢四十八歳、極めて温和なる人物である。

助役　伊藤吉兵衛氏

氏は厚狹郡内に於ける助役中最年少者にして本年やうやく二十六歳である村民の信望厚く將來村の中心人物として年若きに似ずめて快活なる現代的紳士である。

村會議員

農業	初期	三十二才	上田明一
製材業	初期	五十四才	大田常一
農業	初期	五十二才	伊藤傳助
材木商	再選	四十四才	岩間幾一
無職	初期	慶應元年生	日高和之助
農業	初期	五十三才	國廣龜千代
地主	初期	安政三年生	山田貢作
農業	新選	五十一才	上野卯之助
周旋業	初期	五十二才	吉永利助
農業	初期	五十三才	曾瀬留次

（定員十二名、二名欠員）

名望家地主、信用組合長　四十八才　倉重美介

厚狹郡吉部村

位置　厚狹郡最北部にあり東部は同郡小野村に接し北部は美禰郡に境て西南部は同郡万倉村接す、舟木鐵道あり縣道南北に貫通して交通便至極よし

面積　宅地　九九、四二五坪　田地　四、九七三、一〇五歩
畑地　一、一一九、九二〇歩　山林　一一、二二二、五二二歩
人口　三、五〇〇人

戸數　六〇二戸

歳出入　三二、四八五圓

郷土の人々

村長　**藤本東雄氏**　藤本東雄氏は同村屈指の家柄であり名望家である、現職にある事實に四期農會長村會議員を兼任して居る、年齢六十七歳、かつては郡會議員をつとめた事もあり資性剛健にして敏腕のきこへ高き名村長である。

助役　**徳永龜一氏**　氏は役場に在る事實に二十數年間其間よく事務に精通し書記收入役を經て現職に至る、名村長藤本氏を補佐して村治の當局に當り其責任を全ふして居る、年齢四十六才氏の將來は恬目に價する。

村會議員

農業	新選	五十四才	山根和夫
農業	新選	四十七才	益富源一
郵便局長	新選	五十二才	油利德治
農業	新選	四十七才	山本半一
農業	新選	五十四才	千々松禎一
農業	新選	慶應二年生	永見彦左衛門
農業	新選	慶應三年生	田中源藏
農業	新選	五十三歳	田中猛房
農業	新選	正十一歳	渡邊駒吉
農業	新選	五十六歳	上符松藏
商業	新選	五十四歳	中島富四郎

（以上定員十二名）

厚狹郡舟木町

位置　厚狹郡の中央に位し東西南北共に長短大差なく殆んど圓形にして東は厚東村に西北は厚狹町に何れも山脈を以て境し東北及ひ南は平野又は丘陵にて万倉並に高千帆の兩村に接す

舊藩中は毛利家の一門たる四本松毛利家の所領なりしが梅田、西山、櫃崎の三字が故ありて四本松より上地せられ御藏入即ち萩直轄となり万倉村の内西万倉に屬せり廢藩置縣の後は第十二大區の區劃となり明治十一年十一月地方制度實施に當り船木村戸長役場を置かれ其間梅田、西山、櫃崎の三字も西万倉より別れて再び本村の所屬となり明治二十二年四月町村制實施せらるゝも何等の變更もなく大正六年九月一日船木町と改稱し今日に及べり

面積　東西一里一〇町南北一里八町周圍四里三一町あり東經一三一度一〇分より一三一度一四分に至り北緯三四度一分より三四度三分に位す

戸數　一、二四六戸　人口　五、五〇八人

歳出入　六三、三〇四圓

町長　岸田豐輔
二期
助役　西村春一
一期

町會議員 田中一郎　町會議員 白松清一　町會議員 原田龜五郎
町會議員 大道周治　町會議員 石川友治郎　町會議員 高木馨
町會議員 高橋久吉　町會議員 日高鶴松　町會議員 沖谷和三郎
町會議員 西村健一　町會議員 山本甚一　町會議員 伊藤義一
町會議員 松本防策　町會議員 松岡淺一　町會議員 西村喜代松
町會議員 松井清右衛門

（定員十八名、欠員二名）

厚狹郡二俣瀬村

位置 厚狹郡東部にあり東北部は吉敷郡嘉川村及小野村に接し西南部は厚東村に接す、厚東川其中央を貫流し風光極めてよし

面積 宅地 五八、六六四坪　田地 三二一、三反
畑地 五一八反　山林 一三、三九五反

戸數 三四五戸　人口 一、六三五人

歳出入 二一、八六〇圓

村長 醫師 山田紀熙
助役 原田文太郎
信用組合長村會議員 西村德藏　村會議員 綿田治　村會議員 山田紀熙
村會議員 米永民三郎　村會議員 林百合松　村會議員 武重房吉
村會議員 永山竹二郎　村會議員 吉本謙治　村會議員 西村信七
村會議員 有田未一　村會議員 林繁治郎

（定員十二名、一名欠員）

小學校々長 林慶一

同　萬倉村

位置 厚狹郡中央にあり東北は同郡右部小野兩村に接し西南は舟木吉田兩町村に接す、舟木鐵道あり縣道南北に貫通し交通の便よし

面積 宅地 一〇一、五四七坪　田地 五五八町二一
畑地 八五町五六　山林 一、〇五五町九二

戸數 五八五戸　人口 二、七五〇人

歳出入 二九、一五三圓

村を支配する人々

村長 **岩崎順藏氏**　氏は村内隨一の名望家で村會議員をつとめる事實に二十五年間、家業は農業を以つて立つて居るのであるが始めに三十餘年間昨年縣當局より表彰を受けた誠に溫厚なる君子人である、年齡六十三歳。

助役 **伊藤源治郎氏**　氏は農を以つて立つて居る篤農家である、村政にも精通し村會議員として活動した事もあり同村の模範的人物である、年齡五十歳、尙將來大いに期待すべき敏腕家である。

村會議員 杉本眞弐　村會議員 中屋幸太郎　村會議員 白石健一

露光量違いの為重複撮影

320
599

昭和四年三月二十日納本
昭和四年三月廿五日發行　（非賣品）

山口縣宇部市大字小串七拾參番地ノ壹
發行兼著作者　藤井勇高

下關市竹崎町一丁目
印刷者　飯田甚藏

下關市竹崎町一丁目
印刷所　飯田活版所

宇部市大字小串七十三番地ノ壹
發行所　山口縣勢刊行會

村會議員　吉村豐一
村會議員　村上仁作
村會議員　河村彌藏
村會議員　柿並稔
村會議員　勝原傳之進
村會議員　干々松秀之進
村會議員　柿並稔
村會議員　岩崎順藏
村會議員　石川文治郎
村會議員　伊藤庄五郎

（定員十四名、一名欠員）

農業信用組合書記　小林貞助
名望家、信用組合長前村會議員　中務順介

露光量違いの為重複撮影

320
599

昭和四年三月二十日納本
昭和四年三月廿五日發行
（非賣品）

山口縣宇部市大字小串七拾參番地ノ壹
發行兼著作者　藤井勇高

下關市竹崎町一丁目
印刷者　飯田甚藏

下關市竹崎町一丁目
印刷所　飯田活版所

宇部市大字小串七十三番地ノ壹
發行所　山口縣勢刊行會

村會議員　吉村豐一　村會議員　勝原傳之進　村會議員　岩崎順藏
村會議員　村上仁作　村會議員　干々松秀之進　村會議員　石川文治郎
村會議員　河村彌藏　村會議員　柿並稔　村會議員　伊藤庄五郎

（定員十四名、一名欠員）

農業信用組合書記　小林貞助
名望家、信用組合長前村會議員　中務順介

終